



社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
常任理事
NACS消費生活研究所担当
古谷 由紀子

1. 食の安全・安心への取り組みは充実したが、 リスクに対応した取り組みになっているか

商品の仕入れから消費者の手元に届くまでの品質管理について、食卓に安心を届けるために、食品安全・品質保証の基本的考え方を明確にし、体制づくり、規程の策定、検査・点検の強化、リスクコミュニケーション、職員教育など非常に充実した取り組みとなっています。またこれらの取り組みの結果についてもそれぞれ詳細に情報開示するという姿勢は「食とくらしのパートナーとして最も信頼される存在になる」との強い意欲を感じます。しかし、安全・安心という目的のために、常に足し算で際限のない取り組みに突入しているようにも見受けられます。そこに落とし穴はないでしょうか。品質や安全について何をどこまで行うか、リスクに対応して効果的に行っているのか、気になるところです。

2. 会員生協の地域での取り組みが大変充実。 持続可能な社会のための地域づくり、人づくりの広がりを期待

大学との連携による消費者力育成、行政との連携によるレジ袋削減、組合員参加によるプロジェクト、「1日エコライフデー」、体験活動、地域での助け合い、街づくりのNPOへの助成などテーマも取り組み方法も多彩で、地域に根差した生協の良さが存分に生かされています。今後、持続可能な社会のための地域づくり、人づくりの広がりを期待しています。

3. 各主体との連携、協働の取り組みが強み。今後さらに取り組みの拡大を期待

持続可能な社会は行政だけではつくることができないのはだれもが認識するようになりましたが、各主体が協働して課題解決に取り組むための制度は十分ではなく、私たちの意識も未熟です。しかし、コープネットグループでは、業態と業態の「ともに」、組合員と事業の「ともに」、「くらしの知恵」と「つくる知恵」の「ともに」という3つの「ともに」を大切にしています。このような考えは今後の持続可能な社会の構築の核になる考えだと思います。これらの取り組みをさらに広げ、社会でのリーダーシップを期待します。

4. 社会的課題と経営との関係を明確にし、 目標やプロセスなどの見える報告を希望

社会的責任に関する取り組みについて、食の安全・安心、食料自給率の向上、「佐渡トキ応援プロジェクト」などを通じた環境保全型農業の推進など、本業を生かした取り組みが充実しています。しかし、これらの社会的課題への取り組みと経営との関係が見えにくいように思います。コープネットグループの理念、2015ビジョン、経営方針、機関・組織運営、総合マネジメントシステム、内部統制とのかかわりについてもう少し丁寧な説明が必要だと思われます。そして、時間軸を入れて、目標、方針、計画、進捗などが見えるようにするとわかりやすくなるのではないのでしょうか。コープネットグループがこの報告書を通してより多くの方々との対話の起点となる情報開示を目指していることにも適うと思われます。